

＜「HB・セラミックス」のマイナスイオン発生量測定報告書＞

1. 目的

本試験は、「HB・セラミックス」がマイナスイオンをどの程度発生するかを確認するために測定した。

2. 被験試料

- 1) 「HB・セラミックス」：株式会社コンフォート 様提供検体
- 2) コントロール

合計 2 検体

3. 測定項目および測定機器

マイナスイオン発生量測定器：KST-900 IONTESTER（神戸イオン商会製）

合計 1 項目

4. 試験方法

1) 検体の前処理

「HB・セラミックス」をミキサーを使って 1 分間微粉碎したものを検体として使用した。

2) 試験内容

まず、縦 34.8cm×横 12.0cm の厚紙を用意して、微粉碎した「HB・セラミックス」を過剰に散布および接着させた。10 分程度放置した後、付着していない「HB・セラミックス」を除き、「HB・セラミックス」が剥がれ落ちてこないことを確認して、重量測定をして散布量を算出した（散布量は 2.17g/417.6cm² (0.0052g/cm²) であった)。これを円筒状（高さ 34.8cm の円筒状にした）にしてマイナスイオン測定器の吸引口に取り付けて 10 分間測定した。

尚、コントロールは「HB・セラミックス」を散布せずに、同じ方法にて測定した。

5. 結果

	「HB・セラミックス」	コントロール
マイナスイオン発生量 (平均値)	57.9 個/cc	0 個/cc (プラスイオンとして 1.2 個)

6. 考察

本試験では、「HB・セラミックス」を微粉碎してマイナスイオン発生量を測定した。これは、「HB・セラミックス」はその形状がペレットの形態であることから、原型の状態では測定は困難であったため、微粉碎をすることにより測定可能であったことから、本試験方法を採用して測定した。

また、依頼者指定の「振動を与えながらの測定」も行ったが、「HB・セラミックス」の微粉末が浮遊し、マイナスイオン測定器の吸入口に入り、測定を阻害する等の理由から、測定は不能であった。

これらのことを踏まえ、本試験方法において測定を行ったところ、コントロールと比較して、「HB・

セラミックス」は平均値で 57.9 個/cc、最高値で 110 個/cc の発生が見られ、コントロールは、ほぼマイナスイオンは発生していないことから、「HB・セラミックス」はマイナスイオンを持続的に発生していることが示唆された。

従って、「HB・セラミックス」は継続的にマイナスイオンの発生が認められたことから、何らかの効果をもたらすものと考えられた。

以上